

---

## 4 - 1 2 . 国際介護福祉科

### ①人財育成目標

日本社会において、2025年には約245万人の介護人材が必要とされていますが、介護人材は34万人不足すると予想されています。また、2017年、入管法の改正により、新たに「介護」の在留資格が認められ、外国人介護人材への期待も高まっています。そのため本科では、2つの人財育成目標を掲げます。1つ目は介護福祉士の養成です。1年次から段階別に国家試験介護福祉士の試験問題に接し、2年次に国家試験介護福祉士の合格を目指します。2つ目は利用者に寄り添うことのできる理念と知識と技術を備えた介護人材の育成です。2年間で、介護人材として働くことができるように、1年次の前期前半では、介護の入門や利用者とのコミュニケーションをやさしい日本語を使って学びます。そして1年次の前期後半より徐々に専門知識・専門技術へと段階別に難易度を上げ、習得をしていきます。また、教育連携として、介護法人で課外活動（アルバイト）でOJTを受けることによって介護の実践力を養います。そして、1年次、2年次に各年2回の介護実習を行うことによって、主体性、実践力を学びます。本科を通して、根拠に基づいた介護が実践できる介護福祉士を育成します。

### ②カリキュラムポリシー（CP）教育課程の編成・実施の方針と分野

#### 【シナリオ1】

介護施設で必要とされる基礎的な仕事の内容や手順を学びながら、施設利用者やその家族、職員と円滑なコミュニケーションができる日本語会話力や職場における初歩的な「報・連・相」を身につける。

#### 【シナリオ2】

介護福祉士の基盤となる「社会のしくみ」「人権と権利擁護」「社会保障」について学習し、人や制度について理解する。

#### 【シナリオ3】

介護福祉士の仕事内容について「介護の基本」「身体介護」「生活援助」「相談援助」と分野別に学習をし、介護福祉士の仕事内容を理解するとともに、介護現場で対応できる介護技術を身につける。

#### 【シナリオ4】

利用者のこころとからだについて「こころのしくみ」「からだのしくみ」「疾病や障害」「喀痰吸引や経管栄養」と分野別に学習をし、介護現場で必要な利用者を理解するための知識を身につける。

#### 【シナリオ5】

実践に必要な知識・技術・姿勢を学んだうえで明確な実習課題を設定し、実時間450時間の介護実習カリキュラムを修了する。

#### 【シナリオ6】

介護福祉士国家試験合格基準に達する。

---

### ③ディプロマポリシー（DP）卒業認定・専門士授与の方針

#### 【知識・技能】

国家試験介護福祉士の合格基準に達する介護の専門知識が習得できる。介護現場で利用者に安全、安心な介護・医療的ケアが提供できる。

#### 【思考・判断・表現】

地域社会、介護現場の環境、利用者の状況に応じて、利用者の尊厳や権利を擁護することができる。介護福祉士としての倫理や社会的責任等を総合的に判断して問題を提起し、他者への配慮と客観的な論理思考力を用いて解決に導くことができる。

#### 【関心・意欲・態度】

介護の職務への強い関心及び物事へのチャレンジ精神を有し、学業や課外活動において自らがキャリアアップすることができる。

### ④取得目標資格

資格名・級	主催	受験時期
【1年次】 日本語能力試験	日本国際教育支援協会	7月 12月
【2年次】 介護福祉士	厚生労働省	1月

### ⑤目標とする職業

介護福祉士

# 国際介護福祉科「人材目標」育成シナリオ構成図

目指す業界・職種		業界・企業が求める職業人材ニーズ																																										
<目指す業界> ・地元の社会福祉法人等の介護施設 <目指す職種> ・介護職		スキル 人材目標					・介護業務の基盤となる能力や考え方にに基づき、利用者の心身の状況に応じた介護を自ら一定程度実践できるレベル。 ・日常会話ができ、生活に支障のない日本語能力を有している。 ・介護現場で介護業務に従事する上で支障のない程度の水準の日本語能力を有している。					社会人 基礎力					・利用者や家族、介護施設内において状況に応じて適切なコミュニケーションをとることができる。 ・専門的な知識や技術を磨き、常に利用者や介護の業務に対して誠実である。																											
分野/シナリオ	シナリオ別到達目標	1年															2年															1年		2年		合計	習得を目指す 資格・技術・ツール・スキル・成果物							
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	前期	後期	前期	後期															
介護福祉士 国家試験対策	シナリオ8 介護福祉士国家試験合格基準に達することができる。 *合格には2つの条件を満たすことが必須 1.総得点の80%程度の基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点 2.「11の科目群」すべてに得点すること	介護の領域					コミュニケーション技術 I					10					こことからだのしくみの領域 医療的ケアの領域					こことからだのしくみ II					60		■就労が認められる在留資格の取得 (在留資格:介護) 介護福祉士国家試験合格															
		こことからだのしくみの領域					人間関係とコミュニケーション I					10					模擬問題					人間関係とコミュニケーション II					10																	
		人間と社会の領域					人間の尊厳と自立					10					過去問題・本試験					介護過程 II					30																	
		人間と社会の領域					人間と社会 I					30					介護の領域					介護の基本 III					30																	
介護福祉士 養成教育	シナリオ7 実時間450時間の介護実習カリキュラムを修了することができる。	介護実習 I (高齢)					150					(高齢・障害)					150					介護実習 II (介護過程)					(居宅)					300		■技能水準及び評価方法等 (日本語能力水準) 実時間450時間の介護実習カリキュラム修了 ■介護福祉士養成施設規定(介護実習 I・II) 出席時間数が養成施設規則に定める時間数の5分の4を満たす。										
		介護総合演習 I (実習準備)					60					介護総合演習 II (実習準備)					60					0		390		0		450		840														
		介護過程 I (記録)					30					介護過程 II (記録)					40					介護過程 II (介護過程実践発表会)					50					0			0		0		90		90			
	シナリオ6	[医療的ケア]の領域に関する教育を含むべき事項について理解することができる。																				0		0		0		90		90		■技能水準及び評価方法等(特定技能1号) (技能水準) 介護福祉士養成施設修了 ■介護福祉士養成施設規定(介護実習 I・IIを除く) 各科目の出席時間数が養成施設規則に定める時間数の3分の2を満たす。 ■医療的ケア基本研修修了証明書交付 基本研修(新養成施設指定規則別表4備考2又は別表5備考2に規定する講義及び演習をいう。以下同じ。)に関する事項 (講義に関する事項) 講義時間数、休憩を除いた実時間50時間以上履修が必須。 (演習に関する事項) 医療的ケアの種類に応じて、それぞれ次の回数以上の演習を履修が必須。 1.喀痰吸引(口腔5回以上 鼻腔5回以上 気管カニューレ内部5回以上) 2.経管栄養(胃瘻又は腸瘻5回以上 経鼻経管栄養5回以上) 3.救急蘇生法1回以上												
	シナリオ5	「こことからだのしくみ」の領域に関する教育を含むべき事項について理解することができる。					障害の理解 I					30					障害の理解 II					30					0		120		120		0		240									
	シナリオ4	「介護」の領域に関する教育を含むべき事項について理解することができる。					認知症の理解 I					30					認知症の理解 II					30					20		150		90		0		260									
	シナリオ3	「人間と社会」の領域に関する教育を含むべき事項について理解することができる。					発達と老化の理解 I					30					発達と老化の理解 II					30					40		0		80		0		120									
	教育 日本語	シナリオ2	初任者研修レベルの基本的な介護知識を理解することができる。					介護日本語 II					60					介護の基本 I					60					240		0		0		0		240								
		シナリオ1	基礎的な介護の日本語を理解できる。基礎的な介護の日本語を使って、指示を理解したり報告したりできる。					介護日本語 I					180					コミュニケーション技術 I					20					コミュニケーション技術 II					30					0		0		0		240
			人間関係とコミュニケーション I					20					生活支援技術 I					90					生活支援技術 II					30					0		0		0		240					
		人間の尊厳と自立					20					人間関係とコミュニケーション II					20					社会的理解					60					990		1020		2010		■日本語能力水準及び評価方法等 日本語能力試験(N3以上) ■介護日本語習得 JF日本語スタンダードB2相当(自立した言語使用者)						
		合計																				300		690		290		730		2010														

# 教育課程及び授業日時数

国際介護福祉科

課 程		専 門 課 程		単 位 表 示			
		国際介護福祉科					
学 科		第 1 学 年	第 2 学 年	第 1 学 年	第 2 学 年		
科 目		第 1 学 年	第 2 学 年	第 1 学 年	第 2 学 年		
専 門 科 目	A 選 択	1	介 護 日 本 語 I	180		6	
		2	介 護 日 本 語 II	60		2	
	B 選 択	3	生 活 支 援 技 術 I	180		6	
		4	介 護 の 基 本 I	60		2	
		5	人 間 の 尊 厳 と 自 立	30		2	
		6	人 間 関 係 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	30		2	
		7	人 間 関 係 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II		30		2
		8	社 会 の 理 解		60		4
		9	人 間 と 社 会 I	30		1	
		10	人 間 と 社 会 II		60		2
		11	介 護 の 基 本 II	60		4	
		12	介 護 の 基 本 III		60		4
		13	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 I	30		1	
		14	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 II		30		1
		15	生 活 支 援 技 術 II	90		3	
		16	生 活 支 援 技 術 III		30		1
		17	介 護 過 程 I	30		1	
		18	介 護 過 程 II		120		4
		19	介 護 総 合 演 習 I	60		2	
		20	介 護 総 合 演 習 II		60		2
		21	介 護 実 習 I	300		10	
		22	介 護 実 習 II		300		10
		23	こ ころ と か ら だ の し く み I	30		2	
		24	こ ころ と か ら だ の し く み II		90		6
		25	発 達 と 老 化 の 理 解 I	30		2	
		26	発 達 と 老 化 の 理 解 II		30		2
		27	認 知 症 の 理 解 I	30		2	
		28	認 知 症 の 理 解 II		30		2
		29	障 害 の 理 解 I	30		2	
		30	障 害 の 理 解 II		30		2
		31	医 療 的 ケ ア		90		3
年 間 履 修 時 間 数			1020	1020	42	45	
年 間 授 業 日 数			180	180			

専門選択科目は、A選択、またはB選択のいずれかを履修する。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 国際介護福祉科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
	○		介護日本語Ⅰ	学生が、介護の理念や初歩的な専門知識、介護の周辺業務を理解するために、平易な日本語を用いて介護福祉士を目指すための入門を学習する。	1	180	6	○			○					
	○		介護日本語Ⅱ	学生が、専門知識や専門技術を段階的に理解するために、初歩的な介護知識や介護技術、こころからだのしくみの学習をする。日本語を用いて利用者への声かけ、簡単な報連相を学習する。	1	60	2	○			○		○	○	○	
	○		生活支援技術Ⅰ	学生は利用者が本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための実技を中心に知識・技術を習得する。	1	180	6	○	△		○			○	○	
	○		介護の基本Ⅰ	学生は、介護人材として働くために、社会福祉の基礎となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを学習する。	1	60	2	○			○			○		
○			人間の尊厳と自立	学生は、介護人材として働くために、人間の尊厳の保持と自立について学習し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を学習する。	1	30	2	○			○			○		
○			人間関係とコミュニケーションⅠ	介護施設で社会福祉士として相談業務に従事する教員が担当する。学生は、利用者や職員とのチームケアを実践できるよう、対人援助に必要な人間関係性を理解し、人間関係形成に必要な基礎的なコミュニケーションを理解し、学習する。	1	30	2	○			○			○	○	
○			人間関係とコミュニケーションⅡ	学生は、介護の質を高め、チームで働くための能力を養うために、コミュニケーションの基礎的な知識を習得する。	2	30	2	○			○			○		
○			社会の理解	介護施設で社会福祉士として相談業務に従事する教員が担当する。学生は、日本の社会を理解するために、①生活と社会の関係性②地域共生社会・地域包括ケア③日本の社会保障制度④高齢者・障がい者の福祉および権利擁護の基礎的な知識を習得する。	2	60	4	○			○			○		
○			人間と社会Ⅰ	学生が、介護を必要とする利用者及び家族を理解するために、家族と利用者本人の関係のあり方や時代による変化を習得する。また介護が生活支援の側面をもつために、衣食住、消費生活に関する基礎知識、日本語力の向上のための学習をする。	1	30	1	○			○			○	○	
○			人間と社会Ⅱ	学生が介護福祉士国家試験の4領域の内容や傾向を理解し、介護の専門職として学んだ知識や技術が国家試験問題に対応できるよう学習する。	2	60	2	○			○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			介護の基本Ⅱ	介護施設で介護長として勤務する教員が、介護の基本理念、介護サービスについて教える。学生が介護を適切に行う能力と態度を身に付けるために、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解する。	1	60	4	○			○			○	○	
○			介護の基本Ⅲ	学生が介護を適切に行う能力と態度を身に付けるために、介護を必要とする人の障害や症状に応じた個別の介護の意義やサービスを習得する。	2	60	4	○			○		○	○		
○			コミュニケーション技術Ⅰ	介護施設で介護リーダーとして勤務する教員が実際の介護現場の知見を活かしてコミュニケーションの実際を教える。学生は、利用者や職員とのチームケアを実践できるよう、コミュニケーションの意義や技法を学び、実践する。	1	30	1		○	△	○				○	○
○			コミュニケーション技術Ⅱ	学生は利用者や職員とのチームケアを実践できるよう、コミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション技術を理解し、実践する。	2	30	1		○	△	○			○	○	
○			生活支援技術Ⅱ	介護施設で介護長、介護リーダーとして勤務する教員が、利用者の自立支援を中心に介護知識や支援技術を教える。学生は利用者が本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・生活支援技術を習得する。	1	90	3		○	△	○			○	○	○
○			生活支援技術Ⅲ	学生は利用者が本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。介護を必要とする人の疾病や障害に応じた生活支援を習得する。	2	30	1		○	△	○				○	
○			介護過程Ⅰ	社会福祉法人で地域福祉サービスや研修を担当する教員が、利用者に応じた介護過程を教える。学生は、利用者が望む生活の実現に向けた介護実践のために、生活課題の分析、根拠に基づく課題解決のためのアセスメント、計画立案の過程を習得する。	1	30	1		○		○				○	○
○			介護過程Ⅱ	学生は、利用者が望む生活の実現に向けた介護実践のために、生活課題の分析を行い、根拠に基づく課題解決のためのアセスメント、計画立案、実施、評価、再立案の過程を習得する。	2	120	4		○		○				○	
○			介護総合演習Ⅰ	学生は、介護実習を行うために、介護実践に必要な知識と技術の統合や、学生自らの介護観を形成し、専門職としての態度を習得する。介護実習に必要な準備、心構えを学習する。	1	60	2		○		○				○	○
○			介護総合演習Ⅱ	学生は、介護実習を行うために、介護実践に必要な知識と技術の統合や、就職を視野に入れ自らの介護観を深く形成する。介護実習に必要な準備、心構えを学習する。	2	60	2		○		○				○	
○			介護実習Ⅰ	学生は利用者の生活を理解するために、利用者本人や家族とのコミュニケーションや生活支援等の基礎的な実践を行う。	1	300	10			○		○		○		○
○			介護実習Ⅱ	学生は利用者が望む生活を実現するために、多職種と協働しながら、介護過程（介護プラン）を考え実践する。介護施設や地域など多様な介護サービスを実践し、利用者を理解するように努める。	2	300	10			○		○		○		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こころとからだのしくみⅠ	介護施設で看護師として勤務する教員が人間の心理・人体の基礎的な構造や機能を教える。学生が介護を必要とする人の生活支援を行うために、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解するために学習をし知識を習得する。	1	30	2	○			○		○	○	○
○			こころとからだのしくみⅡ	学生が介護を必要とする人の生活支援を行うために、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能をより深く理解し知識を習得する。	2	90	6	○			○		○		
○			発達と老化の理解Ⅰ	学生が人間の成長と発達の過程において、身体的・心理的变化及び老化が生活に及ぼす影響を学習し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。	1	30	2	○			○		○		
○			発達と老化の理解Ⅱ	学生が人間の成長と発達の過程において、身体的・心理的变化及び老化が生活に及ぼす影響を学習し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。	2	30	2	○			○		○		
○			認知症の理解Ⅰ	認知症の人の心理や身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心に、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するために基礎的な知識を習得する。	1	30	2	○			○		○		
○			認知症の理解Ⅱ	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するために基礎的な知識を習得する。	2	30	2	○			○		○		
○			障害の理解Ⅰ	障害者施設で社会福祉士として勤務する教員が担当する。学生が障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を学習し、障害のある人の地域での生活や、本人・家族や地域を含めた周囲の環境への支援をするために基礎的な知識を習得する。	1	30	2	○			○		○	○	○
○			障害の理解Ⅱ	障害者施設で社会福祉士として勤務する教員が担当する。学生が障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を学習し、障害のある人の地域での生活や、本人・家族や地域を含めた周囲の環境への支援をするために基本的な知識を習得する。	2	30	2	○			○		○	○	○
○			医療的ケア	介護施設で看護師として勤務する教員が、医療的ケアの基礎的な実技と実践的な技術を教える。学生は医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。	2	90	3	○	△		○		○	○	○
合計				31科目	2,280単位時間 (95単位)										